### 月刊 新医療 第31巻第9号 (2004年9月号)

# 特診療所の電子カルテ

## 診療科別電子カルテのあり方

## 医師 実践的整形外科診療 作成電子カルテで運用する

藤井整形外科クリニック 藤井 英治

発 テ 月に ズに応えて になっています。 います。  $\mathcal{O}$ 当院は整形外科診療所として200 電子力 ダ 新規開院しました。 イナミクス ダイナは実地医家が作成した診療所 、おり、 ルテで、 価格もリー (以下ダイナ) を導入して 一般診療所 当初から電子カ ズナブ  $\mathcal{O}$ 多様 ルなもの なニ 1 年 12.

合わせた改良が随時おこなわれています。 とんどすべて グリス にメー 導入後 担当者が参加して、 ルか電話で対応しています。 のサポ に 寄せられる意見  $\mathcal{O}$ ユ ーザー 1 は日立 ユ と開発者およ ーザ ソフテ • 要望に  $\mathcal{O}$ ツ ニーズに 沿 ク メ びサ が 1 IJ ポ ほ 主

各自がダウンロードして行います。 T れらの改良点や保険改定時などのバ プ は ターネット  $\mathcal{O}$ ホームペ 彐

会が ステ 常に新 交換をすることができるようになりました。 外科を標榜するダイナユ D に グリストも開設され、 ダイナのユーザー 開 ムも確立されています。 収録され 05施設ですが、 かれ しい情報を取り入れることができるシ ています。 て全国 は2004年7月現在  $\mathcal{O}$ ユ 主要な会の 全国各地で研究会 整形外科関連の情報 ーザーだけの ザー また最近、 に 内容はDV 回覧され、 メ 整形 例 IJ

形外科 室は IJ 理 電子カルテ入力と併行して随時行えるように 診療室を中心として受付 ル ・保存を行っています。 当院は新規開業時から電子カルテとデジ ハビリ室 X 線 シ 診察室に隣接し、 で最も多用する検査であるX ステ  $\mathcal{O}$ 配置に工夫をこらしま ムにより診療録のデジタル管 撮影はド 建物設計の段階で X 線 室 ク タ 処置室 線 した。 の撮影 自身が

察室 す。 ナー ができます。 が  $\mathcal{O}$ 撮影室で処理されたCR画像は、 確認後撮影ボタンを押すようにしていま モ が撮影準備 ニニタ 当院には放射線技師はいないため、 に表れ、 位置決めを行 直ちに診断すること 隣 F の診

ます。 診察室と受付は ができるフリーソフト 院内LANを利用してメッセージのやり取 通路をはさんで診察室の向か されることが多か で、 て頻繁に行うことができます。 診察室に隣接するもう一方 指示によりナースが採血 受付は、 少し離 従来は診察室に隣接 ったようですが、 れ IP て Messenger いますが、 \ \  $\mathcal{O}$ 点滴等を行 部屋は 側にあ 当院で して配置 を利用 連絡 処置室 ります。 は は り

ため、 とし ム構成は、 ダイナは Windows2000 またはXPをOS セット」 汎用性の高い電子カルテです。 Access2000 を基本ソフトにしている データー を作成し、 を格納するPC 効率的な入力を実現 (サーバ システ

室 2 ) 最少2台 察室に1台使用しています。 書等発行用に受付に1台、 プリン 台のクライアント は、 と端末PC をLANでつないでいます。 タ セプト用とし ですが、 1台、 会計·薬情 (クライアント) 当院ではサー (受付2、 てサー 指示書発行 バー 診察室2、 処方箋 からな に プリン 1台と6 用に 診 院長 り、 ザ タ

り、 にカ 表が表示されていて、受付状況が瞬時に分か 力します。 表紙を入力し、 受付でダイナに氏名・ 電子カルテの流れは、 順番に呼び込んで診察を行います。 ルテ番号を入力します。 再診は診察券を見て受付表 次に受付表にカ 保険証番号等の 新患 診察室でも受付 の場合、 ルテ番号を入 に順番 最 初 力 ル テ 12

れ 干 7 トとして所見 診察室のデスクには3台のモニター ニター②、 います 中央にダイナの受付表を常に表示する  $\widehat{\mathbb{Z}}$  1  $\circ$ そして右側にCR画像を表示す ・指示内容を表示するモ 左側にダイ ナ クラ が ニタ 置か

を共有 り、 ます。 氏名、 ٢, です。 る 容等がわ 17. もダイナにはあります。 W います。 日 でド 1 モニター③です。 ンが形成され、 の説明をすることによ ド 受付時 クタ チ クタ 左 モニタ 一側 告知 か  $\mathcal{O}$ 液晶、 ーと患者の新たなコミュ り、 病名や診療内容 ーと患者が のモニター しな 間、 **一②の受付表から受付順** 診療手順を決めることが出来 情報開示へ ② は 12. イ 診察・投薬・リ い病名を非表示とする機能 モニター①③は19.インチ、 同 ①は患者の り電子カルテをはさ じ画面を眺 ン 検査デ とつながると思 チ  $\mathcal{O}$ 目 ノヽ ニケ の前  $\Diamond$ の予定内 ター 7 に患者 にこ 画 面

音波 外科 専用 ら所見を入 面を切り替えることなく、 では デジカ  $\mathcal{O}$ 他院 七 X ニタ 線 力できるようにして メ写真等は、  $\mathcal{O}$ 以外の M 一③で診断 R I やC T、 画像は比較的 Ļ JPEGまたはB X 線 電子力 手描きのスケ 画 1 ます。 像を見な 少なく、 ル  $\mathsf{C}$ テ R 整形  $\mathcal{O}$ 画 M が ツ 超 像 画

Pファイルでダイナに保存・表示しています。

利用等で入力は速くなります。 きもあ れらはまだ問題があ トや音声入力を利用したり、 電子力 クを置 りますが、 , , ル テ ている施設もあるようですが、 のキ セットの作成、 ボ り一般的ではあ ード入力を懸念する向 入力専門 ペシ D タブ 〇機能 りません。  $\mathcal{O}$ クラ ツ  $\mathcal{O}$ 

ます。 所見に 置、 所見セットと検査および処置の 作成しています。 て簡潔に述べます。 入力を効率よく行うために独自 注射、 つ ここでは、 7 てのセットと基本診療、 処方等の診療行為のセットがあ 整形外 セットは大別すると症状 科に特 セ 徴的  $\mathcal{O}$ ツ な症 検査、 セットを 1 に つ 1 処 り

ルニア、 所見 胸 下肢そ 郭出 症 状 0 項目を一括入力できるように登録して Ц, O頚筋膜. 他に分け、 所見セット 脊柱変形等、 炎、 頚椎 は部位別に 脊椎はさらに 疾患別 捻挫、 頚 脊椎、 に主な症状 腰痛、 ルニ 上 ア、 肢、

ます

 $(2)^{\circ}$ 

見も脊椎、 的な所見を登録しています。 括入力できます。 上肢、 下肢も同様に疾患別に所見項目が 上肢、 また所見セ 下肢に対応して各々、 ットではX-P 代表

痛風 すが、 造影 液 ようになっています。 りますが、 診療行為の検査セットは、 ·尿、骨塩定量、 のX-Pセットを作成し、 血液・尿セットで頻用されるのはR 骨粗鬆症、 脊椎、 高脂血症等です。 上肢、下肢その エコー、 検査セットは X-Pが中心とな 一括入力できる 脈波等があ 他、 他に、 および りま 血.

す。 復、 手術に大別 処置セットでも整形外科で頻用する項目を ハビリ・ 関節脱臼・捻挫、ギプス、神経ブ を作成して入力の効率化を図って また基本診療、 消炎鎮痛、 各々処置項目を登録 注射、 創傷処置、 処方につい 骨折徒手整 口 てもセ ツ

### 紙 の 「指示書」 で安全をバックアッ

查、 患者ごとに診療終了後、基本診療項目、 処置、 IJ ハビリ、 注射、 処方等の内容を

電子カルテとの再チェックが行われます。 終了すると指示書は受付に届けられ、 室で採血 プリントアウトした紙を「指示書」 スに 回されリハビリが実施されます。 渡 します。 ・注射を行い、 ナー スは指示書を見て処 指示書は次にリ とし これらが ノヽ 室

率も上がります。 をモニタ から薬の準備をします。 の準備は受付 る方が見誤りは遥かに少なく正確とな 採血等  $\mathcal{O}$ 処方内 ーで見るより、 の検査項目や注射薬は、 容を見ながら受付奥にある薬品 のクラークが行 当院は院内処方で、 紙 の指示書で確認す いますが、 電子力 り、 処方薬 指示 能 テ 棚

目に 書き込みの優先権を持つ」 害を起こし これを防 ラブルが発生してデーター ています。 診察室と受付のPCで、 同時に書き込みをすると電子カ ぐために、「指示書がある所 てファイルの破損が起こります。 また、 万一、 という取り決 停電等でシ 同じ患者の  $\mathcal{O}$ 部が失われ ル  $\mathcal{O}$ ステ テ 同 Р は 8 C ک 障 項

で 再 た時にも、 入 力することが可能です。 指示書を参照して、 診療項目を後

ます。 前 め勧 サイズは260MB程度なのでM カルテ書き込み中のバックアップ操作は、 とることが 1 ステムダウン等の します。 トチ -RWに入れ バツ D スク つでも前 ・午後の診療終了時に複数のPC められません。 と M エ R 診療中に時系列で自動バ クアップの方法ですが、 ックをすることもできます。 にバ 今のところ当院のダイナ O できるソフトもありますが、 のカルテに戻れるようになっ に手動でバックア ツ て持ち帰っ クア トラブ 毎月の ツ プをとり永 ル発生 て自宅の レセプト作成後は ツク  $\mathcal{O}$ ップをとり、 当院では  $\mathcal{O}$ 久 Р 源となるた O または 保存 ファ ア C ノヽ で ツ ドデ 電子 7 版 を 午 ル

#### 結語

療 ることにより、 以上、 の概要を述べ 当 院 0 ました。 電子カルテによる整形 力 ルテの電子保存が可能とな 電子力 ルテを導入す 外 科診

実な診療が実現できると考えられます。 ではなく、 りますが、 指示書を利用することで、 完全にペーパーレスで運用するの より確

#### 文 献

ダイナミクス研究会編、 診療所発の電子カルテ・ダイナミクスのめざすもの ダイナミクス叢書第1巻、東京、日本医療情報センター、 ユーザーとともに進化する

診察室デスク(左よりモニター①、 2

図 1

図 2 症状・所見セット入力画面

3





